

日本歯周病学会第8回中国地区臨床研修会終了報告

臨床研修委員会委員長 東 克章

平成28年7月3日、第8回中国地区臨床研修会を島根県歯科医師会館にて下記の通り開催しましたので、ご報告いたします。

テーマ：－歯周治療の新たなる展開－健康寿命延伸のために

主催：特定非営利活動法人 日本歯周病学会

共催：一般社団法人 島根県歯科医師会

広島大学大学院 医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 歯周病態学研究室

大会長：渡邊 公人（一般社団法人 島根県歯科医師会 会長）

実行委員長：栗原 英見（広島大学大学院 医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 歯周病態学研究室 教授）

準備委員長：東 克章（日本歯周病学会 臨床研修委員会委員長）

運営事務局：第8回中国地区日本歯周病学会臨床研修会実行委員会

日時：平成28年7月3日（日）9：00～17：00

会場：島根県歯科医師会館

プログラム：開会の辞

挨拶

- 教育講演① 「根拠ある歯周治療の実践」古市 保志：北海道医療大学 歯周歯内治療学分野 教授
- 教育講演② 「健康寿命を延伸するための歯周病対策」和泉 雄一：東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 歯周病学分野 教授
- ポスター発表：歯科医師7名、歯科衛生士5名
- 特別講演「歯周治療の位置付けの変化と歯周炎の新しい指標」栗原 英見：広島大学大学院 医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 歯周病態学研究室 教授
- 歯科衛生士教育講演 「生物学に則った歯周治療－SRPの概念と技術の変遷－」東克章：熊本県 東歯科医院 院長
- テーブルクリニック 「－模型を用いたGTR法の実習とエムドゲインについて－」藤田 剛：広島大学大学院 医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 歯周病態学研究室准教授

閉会の辞

まず、古市保志先生は、垂直性骨吸収と根分岐部病変の治療法に関するエビデンスを重視しながら個々の患者と術者の状況に合わせた治療の方法について症例を交えながら考察を加えられた。

和泉雄一先生は、心血管疾患や糖尿病等の生活習慣病を例にあげ、今までの単なる局所的な治療の提供だけでなく、生活支援や生活の質を向上させるという観点から、その方向性や社会性が求められると述べた。

今回、久しぶりに臨床研修会でポスター発表を行ったところ歯科医師 7 名、歯科衛生士 5 名の計 12 名が参加し、活発な議論が繰り広げられた。

栗原英見先生は、医科歯科連携が進展している現状から、今後は医科との連携を前提にした歯周炎の重症度を示す指標が必要だという観点からその指標を提案された。

歯科衛生士教育講演では、従来型のSRPの概念と技術が今どのように変遷しているかについて述べ、症例を通して根面デブライメントという新しい術式の概念と技術を紹介した。

さらにテーブルクリニックにおいては藤田剛先生によるGTR法とエナメル基質タンパクについての講演とGTR法の実習を行った。わかりやすい説明と実習で有意義なものだった。

当研修会は、参加者 154 名を集め、講演、テーブルクリニック、ポスター発表と盛りだくさんの内容で盛会のうちに閉幕できましたことをあらためてご参加の皆様、準備にご尽力下さった関係者の皆様に御礼申し上げます。

以上、島根における第 8 回中国地区臨床研修会のご報告とさせていただきます。